

(様式1)

佐伯市立八幡小学校

校長 小嶋 眞二

令和4年度 第3ステージ 学校評価の4点セット

学校の教育目標: 確かな学力と豊かな心を身につけ、何事にも自ら考え行動できる児童の育成

育成を目指す資質・能力: 言語能力 問題発見・解決能力

【生きて働く「知識・技能」の習得】

生きて働く
身につけた児童の育成
「知識・技能」を

○全国学力・学習状況調査
大分県学力定着状況調査
佐伯市学力定着状況調査
・平均点が国・県・市の平均点以上
○単元末テスト中間・期末
(国算理)学年平均点
・1~3年:85点以上
・4~6年:80点以上
○単元末テスト
(国算理)個人平均点
・40点以下 0人

学校
家庭
地域

○新大分スタンダードを基盤とした「わかる授業」を目指した授業改善
○特設指導時間の実施
・朝学習・スキルタイム(基礎基本)
・放課後学習・八幡塾(活用力)

○授業者は、課題(めあて)とまとめ(振り返り)を毎時間設定する。
○月に2回以上、授業力向上アドバイザーによる指導を受け、授業改善に取り組む。
○複数指導体制による、スキルタイムと八幡塾を実施する。
・スキルタイム:週2回 水・木 基礎基本の定着
・八幡塾 :週1回 火 活用力の向上
○保護者は学期に2回、学校の授業について評価する。
・評価文「学校はわかりやすい授業に努めている」
○協議会の委員は、小中の学力向上に向けて熟議する。
・県、全国学力調査結果の分析や指導法を熟議する。
・学校評議員会が開催されない場合には、委員等に個別に意見等を聞く。

増永・高野・佐藤

【未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等の育成」】

互いの思いや考えをもち、
互いに伝え合うことができる
児童の育成

○単元末テスト(国算理)の
「思考・判断・表現」の観点評価
1・2年国算2教科
3~6年国算理3教科
・A評価が16教科中12教科以上
○「自分の考えをまとめたり、発表したりすることができた」
・児童肯定評価:90人以上
・教員肯定評価:10人中9人以上(見取)
○「地域の学習や地域の人とする学習は楽しい」
・児童肯定評価:90人以上

学校
家庭
地域

○「情報の取り出しを意識した授業」・
「必要性をもったペア・グループ活動を意識した授業」の実践
○ONIE新聞を活用した学習活動の実践
○地域学習の確認と地域行事への参加
○家庭での読書の習慣化
○地域学習への授業支援

○授業者は、「情報の取り出しを意識した授業」・
「必要性をもったペア・グループ活動を意識した授業」を実践。
・肯定評価:教員10人中9人以上
○授業者は、新聞を活用した学習活動に取り組む。
・新聞ワークシートを活用した読み取り:週1回
・NIEタイムを週1回実施
○保護者は、学校便りやHPで地域学習についての記事を読む。
○保護者は、地域学習について評価する。
○保護者は、毎月、ファミリー読書に取り組む。
・PTA研修部が企画し実施する。
・読書カードに記録する。
○校区コーディネーターと連携して、地域人材や素材を活用した地域学習に協力する。
・2学期中に地域人材を15人以上活用

田宮・後藤・森田

【学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養】

苦手なことに進んで
取り組む児童の育成

○「自分で計画を立てて勉強している」
・「よくしている」と回答35%以上
○「進んで家庭学習に取り組んでいる」
・児童肯定評価:90%以上
○hyper-QU検査の学習意欲
・全学級全国平均以上

学校
家庭
地域

○学習状況に応じた家庭学習の実施
○OPTA研修部と連携した家庭学習強化週間の毎月実施
○家庭学習の確認
○学校運営協議会で家庭学習について熟議する

○担任は、2学期当初に確認した家庭学習内容で取組ませている。(毎日)
○保護者は、家庭学習強化週間で、家庭での取組のチェック状況を確認する。(毎月実施)
○保護者は、毎月、家庭学習強化週間に取組む。
・PTA研修部が企画し実施する。
・「家庭学習がんばりカード」を活用して、親子で学習内容を点検する。
○学校運営協議会で、家庭学習について熟議する。

川野・泉谷

【働き方改革の推進】

時間外勤務の縮減

○「学校運営は組織的に運営されている」
・教職員評価:肯定評価80%以上
○毎月の時間外勤務時間の縮減に取り組んでいる
・毎月45時間以内
・年間360時間以内

学校
家庭
地域

○行事、会議等の精選と業務内容の見直し
○在校時間の指針の遵守
○OPTA活動等の取組の見直し
○学校運営協議会で学校への支援を熟議する。

○学校教育目標に沿った行事の精選と縮小化を図る。
○校長・教頭は、タイムカードを活用し、月平均の時間外勤務時間が45時間を越えないように呼びかけや指導を行う。
○教職員は「月2回の定時退庁」に取り組む。
○OPTA専門部の活動についての見直しを学期の部会でを行い、時間短縮や回数の精選をする。
○学校運営協議会で、働き方改革について熟議する。

教頭・教務主任